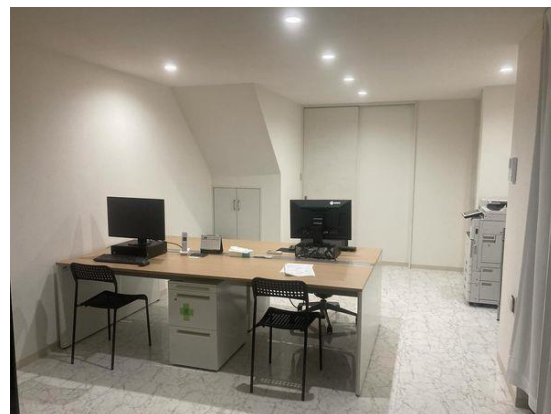
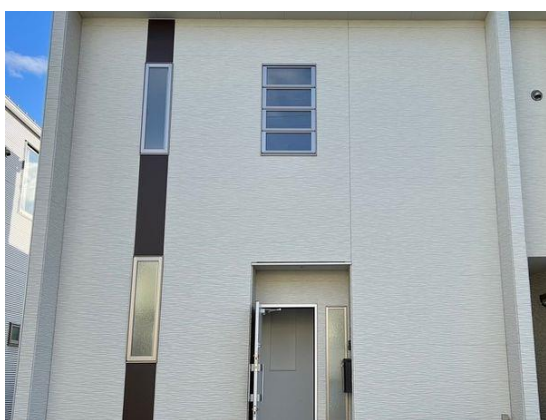




- 1 群馬営業所が始動！
- 2 **羅針盤** 言葉の共通認識とコミュニケーション
- 4 躍進流!! マネジメントの8つの分野 ⑤
- 6 「足場パック」スプリングキャンペーン真っ最中！
- 7 今や透明外壁防水材の代名詞 スカイコートW
- 9 人手不足を考える

群馬営業所が始動！



躍進では去る1月に群馬営業所が発足し、新事業年度より本格始動いたしました！
写真上左は外観で、**写真上右**は事務机やPCをはじめとする調度品を納める直前の写真です。**写真下の2枚**には調度品も納まり、営業所らしくなっております。

現在、北関東（群馬、栃木、茨城）の現場が多くなっているため、埼玉（本社）から現場まで車で2～3時間ほど移動していたのですが、群馬営業所の設立・始動によって現場までおよそ半分程の時間で済みます。これにより北関東を網羅する体制が完全に整いました。現地スタッフもより充実させてまいります。これからの群馬営業所スタッフの活躍と、北関東に吹く躍進の新しい風にご期待ください！

言葉の共通認識とコミュニケーション



同じ意味を共通認識する

言葉はコミュニケーションの基本です。それはお互いが同じものを見つめて同じ解釈をして初めて成り立つものです。例えばリンゴを見て、Aさんが「リンゴだ」でBさんが「ミカンだ」と言っているのは噛み合うことなく、コミュニケーションは不成立に終わります。

そしてビジネス現場では、一般的な日本語に限らず、専門用語をはじめ社内で使われる言葉に対しても、全員が同じ意味として認識することを前提に仕事をしなければなりません。しかし言葉の乱れは日本語の学びが浅い若者に多くみられ、誤用が多発しています。

例えば「役不足」などは代表的な誤用です。上司から「君にこの仕事を任せたい」と言われた部下が、謙遜する意味で「いや、私では役不足でとても務まりません」などと断るケースがあります。この部下は「役不足」という言葉の意味を知らないのです。

「役不足」とは、与えられた役割が自分の力からみて、あまりにもレベルが低すぎる安直な内容であるという意味です。例えば、俳優の木村拓哉さんをエキストラとして起用するようなもので、主役ができる俳優にはあまりにも軽すぎて、まさに役（仕事の内容）が不足しているのです。前述の部下の場合、「力不足」「荷が重い」と使うのが正解です。

新しい意味が主流になった言葉

その一方で、元々の意味に新たな意味が加わって、むしろそちらの方が主流になった言葉もたくさんあります。例えば「文武両道」です。今では勉強もスポーツも両方に秀でた人に対する褒め言葉として用いられますが、元々「文」はインプット、「武」はアウトプットを表した言葉なのです。つまり学んだことは必ず実行しなさいという知行合一の精神を説いているのです。

また、「初心忘るべからず」も、元々は能の世界の言葉で、「修業を始めたころは理不尽ないじめに遭って悔しい思いをしたことだろう。『絶対にそのころに戻りたくない』というその時の辛さを忘れずに精進せよ」という意味でした。

しかし現在では、物事を始める時は大いなるやる気が漲(みなぎ)っていますが、時と共に惰性に流されてしまうので、いつも最初にした十分な心構えを維持しておくようにという戒めの意味が主流になったのです。

ドイツのことわざにも「泣いて暮らすも一生、笑って暮らすも一生」があります。これは今では「一度きりの人生ならば、辛いことも笑って受け流せるようにポジティブに生きよう」という前向きな意味で捉えるのが一般的です。

しかし元々の意味は、「楽しい人生でも辛い人生でも死んでしまえば皆同じ」という意味で、本来人生に意味はないという指摘なのです。言われてみれば確かにそうです。死んでしまえば自我が消滅してしまうので、人生を振り返るところか、自分自身が誰だったのか、そもそも存在していたかどうかとも自覚することができません。

それでも前述のように、辛いことも笑って受け流せるようにポジティブに生きようと思えば、生きている間は楽しく喜びに溢れます。そして人生の意味も感じることができ、こう考える方が得だと思えます。

元の意味が忘れられている言葉

このように色々な言葉がありますが、多くの人が元の意味を忘れていた言葉もあるので、その代表が「敷居が高い」です。これは「葬式のお悔やみにも行かないほどに不義理を重ねているので行きづらい家」を指しているのに、いつの間にか「お高くてとっつきにくい」という意味に変わってしまい、今ではこの意味にばかり使われているようです。

例えば「クラシック音楽って敷居が高いよね」「生け花ってなんか敷居が高い感じがする」などですが、それでも「お高くてとっつきにくい」という意味はきちんと伝わるのです。

なぜそうなったのかは、「お高くてとっつきにくい」ということを一言で表す言葉がないため、「ハードルが高い」や「分不相応」など似た意味の言葉をいっしょにして、強引に「敷居が高い」を当てはめたようなのです。

私は体が不自由なためネット検索しかできませんので、友人に頼み書店で新しい意味の言葉をまとめた辞書を片っ端から調べてもらいましたが、「敷居が高い」は新しい意味が加わるかもしれない過渡期にあるだけで、現時点では誤用であるという結論を得ています。

このように、言葉を正しく同じ意味に解釈しないと、まったく正反対の受け取り方をされ、大きな齟齬が生まれることを忘れてはいけません。正しい共通認識があってこそコミュニケーションが成立しビジネスに成果をもたらすことを肝に銘じておきましょう。

躍進流!! マネジメントの8つの分野 ⑤



この連載は、既報 232号(2022年4月号)から241号(2023年1月号)まで連載した、『これぞ躍進流!! ドラッカー活用術』に続く連載特集です。

そして、タイトルに掲げた8つとは、①マーケティング、②イノベーション、③人的資源、④資金、⑤物的資源、⑥生産性、⑦社会的責任、⑧条件としての利益です。今回は5番目の物的資源についてお話いたします。

経営規模は物的資源に比例

公共工事の指名入札に参加する場合、有資格者の数だけでなく、経営規模によってランク分けされ、「Cランク以下は入札不可」などと線引きが為されます。そうした経営規模は、その企業が所有する物的資源の大小、多少に正比例するものです。

言うまでもないことですが、地上40階建てのタワーマンションの建設を、木造3階建てしか手掛けたことのない街場の工務店様が元請で受注することはありません。内部造作工事にゼネコンの協力業者として携わる程度です。

しかし徐々に実績を積み重ね経営規模を拡大していき、本社所在地も大きな敷地に移転し、各地に支店や営業所などのブランチをどんどん設けていけば、前述の公共工事における指名参加願いのランク分けでも上位に位置していくことは可能です。

それには、土地建物は言うに及ばず、クレーンやパワーショベル、ブルドーザーなどの重機を自社所有しておくことが必要不可欠です。仮に今まで実績のない土地で作業をする場合だけ重機や事務所をレンタル、賃貸することはあります。

しかしもし、その土地の市場性が豊かで、将来的にも大きな成果が見込めると確信したのであれば、正式な拠点として前述の物的資源を自社所有することは必要不可欠です。

自社所有の不動産は担保になる

それに極めて重要なことですが、自社所有の不動産は金融機関からの借入に対する担保として根抵当権設定が可能です。これにより資金繰りが非常にラクになるので、物的資源が資金繰りを支える重要な根拠になるわけです。

また、自社所有の不動産は、第三者に賃貸することもできます。これにより営業外収益としての賃貸収入を得ることができ、それを事業部に発展させれば、正式に総売上高としてきちんと計上できる経営上の大きな柱にもなり得ます。

利益を生んでこその特許権

物的資源は必ずしも目に見える、形あるものばかりとは限りません。その代表が特許権です。しかしここで誤解してほしくないのは、特許権イコール利益を生む宝の山ではないということです。特許とは、他には類例がなくこれを優先的に使用できるように法律で保護しているだけに過ぎないからです。

例えば、歌謡曲の著作権なども似たようなものです。ヒット曲であれば莫大な著作権料が見込めますが、だれもCDを買わないような駄作にも著作権があります。しかし前述のように、他には類例がなくこれを優先的に使用できるように法律で保護しているに過ぎないのです。

そうであるにも拘わらず1円も利益を生まないのなら、その著作権は絵に描いた餅です。同じように誰も欲しがらない商品やサービスの特許権も画餅(がべい)に過ぎません。もし特許権を取得するのであれば、市場性と将来性を正確に見極めたうえで実行しましょう。そうしなければ物的資源として何の意味もなさなくなるからです。

物的資源と人的資源の関連性

そんな物的資源に命を吹き込むのは、言うまでもなく人的資源、つまり人間、社員です。重機を操作するにも、不動産を活用するにも、有資格者であるヒトという経営資源によってなされるのです。それはまさにクルマの両輪のようなものです。もし物的資源を活用し大きな成果を上げたいと思うのであれば、それに相応しい人的資源も同時に確保しなければなりません。

特に一級建築士をはじめとした大型物件の建築を可能にする有資格者は、間違いなく物的資源に命を吹き込み、会社の将来を明るくしてくれます。そんな2つの関連性を忘れることなく有効な物的資源活用を実現してください。

「足場パック」スプリングキャンペーン真っ最中！

現在躍進では、リフォーム総合提案「足場パック」のスプリングキャンペーンの真っ最中で、まさに花盛りです。そのキャンペーンを代表する商品が、『飛驒炭 床下調湿材』『カーボエース』『床下用攪拌・換気システム』の「床下3点セット」(写真参照)です。

セラミック炭から作られた脱臭調湿材『飛驒炭 床下調湿材』は、床下に1坪あたり約12袋敷つめるだけで床下の湿気をコントロールします。底面をフィルム加工してありますので地面からの湿気もシャットアウトします。

同じく、セラミック炭から作られた土壌改良材『カーボエース』は、保肥性、保水性に優れ、病害虫の発生を抑制します。また、土中から放出されるガスを吸着するほか、pH調整機能、土中有効微生物の繁殖促進効果もあります。

『床下用攪拌・換気システム』は、中央部設置によるダイレクト換気(新方式)により1台で20坪までの床下をカバーします。これは、従来の床下換気扇3台分に相当します。換気と攪拌機能を同時に搭載した高効率換気システムであり、床下中央部の高湿エリアをダイレクトに攪拌換気します。これにより、布基礎や基礎パッキン工法、基礎断熱工法等、あらゆる構造の床下に設置可能です。

「床下3点セット」のご注文、お問い合わせは躍進までお気軽に。



今や透明外壁防水材の代名詞 スカイコートW 水系ウレタン樹脂**タイル仕上げの魅力を生かす**

強靱で柔軟な被膜を形成するタイル張り面の透明外壁防水材『スカイコートW』は、もうすっかりおなじみになり、ご注文、問い合わせが多く寄せられています。

透明度の高い水系ウレタン樹脂を主成分とした、1液型外壁用透明防水材です。透明な塗膜なので、タイル仕上げの意匠性をそのままに、雨水の侵入を防ぐことができます。

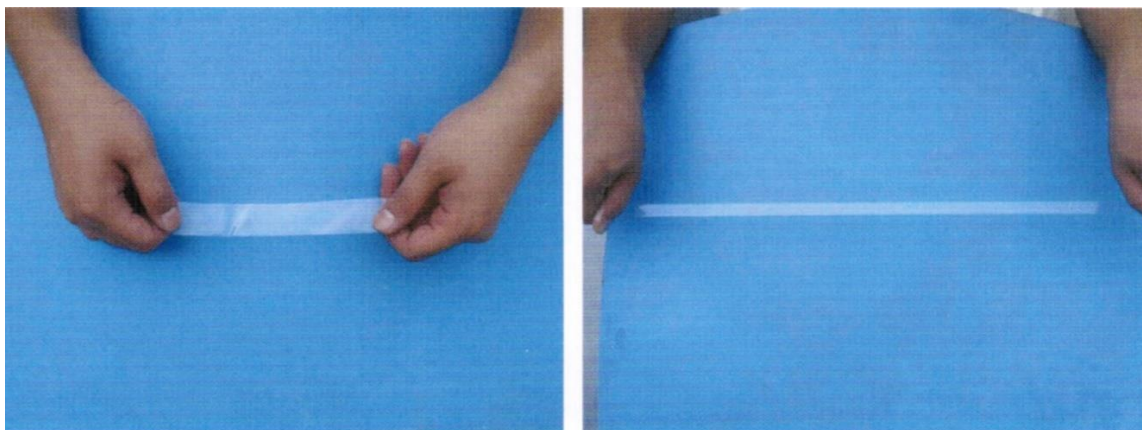
**オール水系**

プライマーを含め、すべての構成材料は水系であり、危険物を一切含んでいないため、引火や中毒の危険がなく、居住者・作業員・環境にやさしい材料といえます。

抜群の高性能被膜

ウレタン樹脂の特性を生かし、強靱で柔軟な被膜を形成し、驚異的なひび割れ追従性(20mm以上)、抗張積(2670N/mm)を備えています(写真参照)。

また、専用プライマーにより、磁器タイルのような吸い込みの少ない下地へも強固に接着し、タイルの剥落の予防に寄与します。



優れた施工性

すべての構成材料は、1液型のため煩雑な混合作業は必要ありません。壁面施工でもダレ難く、適度なレベリング性により、フラットな仕上がりになります。

防カビ・防藻機能

防カビ・防藻機能を付与しており、不快なカビや藻の発生を抑制します。

施工仕様

工程	使用材料	塗布量(kg/m ²)	塗布回数	塗布間隔(目安)	塗装方法	
1	プライマー	スカイコートWプライマー	0.1~0.2	1	春秋 約2時間 夏 約2時間 冬 約3時間	ローラー
2	防水層①	スカイコートW防水材	0.2~0.3	1	春秋 約3時間 夏 約3時間 冬 約5時間	刷毛、ローラー
3	防水層②	スカイコートW防水材	0.2~0.3	1	春秋 約3時間 夏 約3時間 冬 約5時間	刷毛、ローラー
4	トップコート	スカイコートWトップ	0.1~0.2	1~2	—	刷毛、ローラー

高い防水性に加えて、意匠性の確保や、施工性の高さなど、各方面で多大な評価をいただいております。

『スカイコートW』のご注文、お問い合わせは、躍進までお気軽に。ご連絡をお待ちしております。

人手不足を考える 住宅コラム

コロナ禍がほぼ明けている現在、5年前の日常を取り戻すべく、飲食や観光業界は人手を確保することに躍起になっておりますが、それは建設・住宅業界でも同様です。そのため、賃上げに踏み切る会社は多く、ある大手調査機関の調べによれば、賃上げを予定している業種のなかで、建設業は87.8%、不動産業は76.0%が実施に踏み切る予定です。

しかしこれは、異種業同士の人材の奪い合いに発展しているようで、建設業界や不動産業界よりも深刻な人手不足に陥っているのは運輸業界です。

2020年から深刻化する一方だったコロナ禍の影響で、タクシーや観光バスの運転手さんが廃業を余儀なくされました。生活のために他の業種に転職してからも数年が経過しているため、それに慣れてしまい安定収入を得ていれば、今更運転手に戻る気にはなれないのです。そのため、以前にも増して厚遇で迎え入れる態勢を整えているのですが、思うように進捗していないようです。

建設・住宅業界はその点、解体業やとび・土工工事業をはじめとした土木関連では、外国人労働者で補える業種もありますが、これにも問題があるようです。一言で言えば、外国人に足元を見られており、どうしても現場指導が甘くなりがちな点があるのです。

これは言葉の壁などではなく、概念や価値観の問題なのです。例えば作業後の後片付けについてですが、日本人だけの職人さんが担当している解体や掘削現場では、終了時間15分前になれば全員で片付け作業に入り、「立つ鳥跡を濁さず」の如くきれいな状態にして現場を後にします。

しかし外国人労働者のなかには、そのお国柄なのでしょうか、「どうせ明日も汚すのだからいちいち片付ける必要はない。最終日だけで十分だ」と、日本人の監督者が不在であれば何の悪気もなく片付けない人がたくさんいます。しかし人手不足という現実の前にはどうしても固いことは言えず、近隣とのトラブルの度に責任者が謝罪に訪れているようです。

会社側も外国人労働者側も、多様性を履き違えて考え指導も甘くなりがちですが、もし賃上げに魅力を感じてくれるのであれば、日本人のシルバー世代にも目を向け、現場復帰して力を発揮してもらうことは有効な手段です。どんどん実行することをお勧めします。

<p>株式会社 躍進</p> <p>本社 〒337-0043 埼玉県さいたま市見沼区中川106-1 ☎048-688-3388 ☎048-680-7615</p> <p>東京 〒107-0062 東京都港区南青山2-2-8 DFビル2F 営業所 ☎03-6804-2541 ☎03-6804-2542</p> <p>URL=http://www.yakushin.jp E-mail=yakushin-no1@nifty.com</p>	<p>関連会社 不動産事業 株式会社 ヤクシンジャパン</p> <p>関連会社 株式会社 First Arrows ファーストアローズ</p>	<p>事業内容</p> <p>防水工事：FRP、ウレタン、塩ビシート、ゴムシート、アスファルトシーリング、注入、ピンニング、シングル葺き</p> <p>木材保存工事：床下点検、シロアリ駆除及び予防、調湿剤、床下換気等</p> <p>塗装工事：各種塗装</p> <p>外部点検：屋根、陸屋根、バルコニー、外壁等診断</p>
---	---	--